

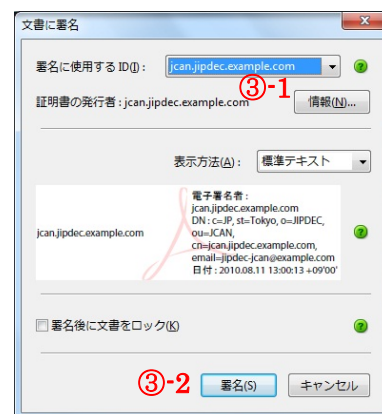
1. 文書プレビューモード

電子署名を行う際の環境を文書プレビューモードにします。文書プレビュー機能は、文書にダイナミックコンテンツや外部の依存関係が含まれていないかどうかを確認できます。文書の表示方法に影響する可能性があるフォームフィールド、マルチメディア、JavaScript などの要素が含まれていないか確認し、JavaScript、アクション、埋め込みメディアなど、文書を変更したり、文書の整合性を損なう可能性がある内容を無効にするか削除します。

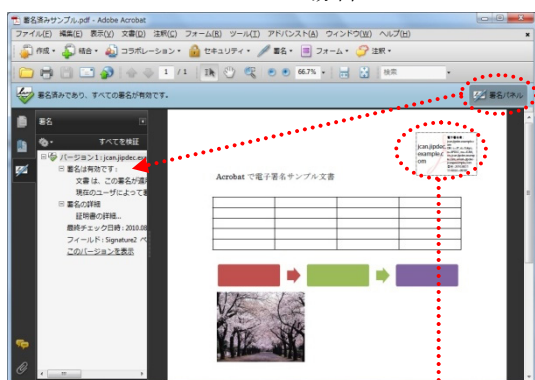
1. 《編集》メニューの《環境設定》をクリックし、[環境設定] ダイアログボックスの分類から「セキュリティ」をクリックします。
2. 「署名時に文書を文書プレビューモードで表示する」を✓し、**OK** ボタンをクリックします。

2. 電子署名する

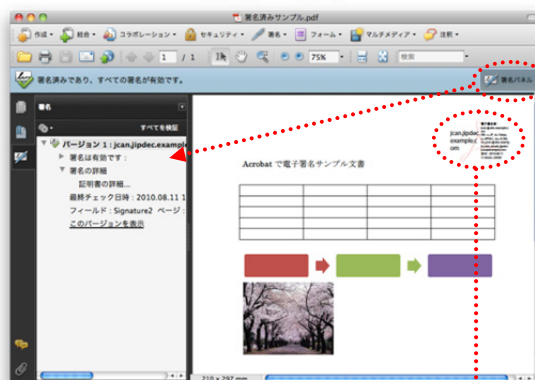
- ① ツールバーの **署名** から「文書に署名」をクリックします。
- ② 「マウスボタンを押しながらドラッグして…」のダイアログボックスが表示されたら **OK** をクリックし、署名フィールドを作成します。
- ③ 「署名に使用する ID」を確認し、**署名** をクリックします。
- ④ 保存します。



Windows の場合



Mac の場合



補足 1：署名の表示方法を変更するには？

[文書に署名] ダイアログボックスの「表示方法」の▼をクリックし、「表示方法を新規作成」を選択します。

「表示方法を新規作成」

わかりやすいタイトルをつけてください。

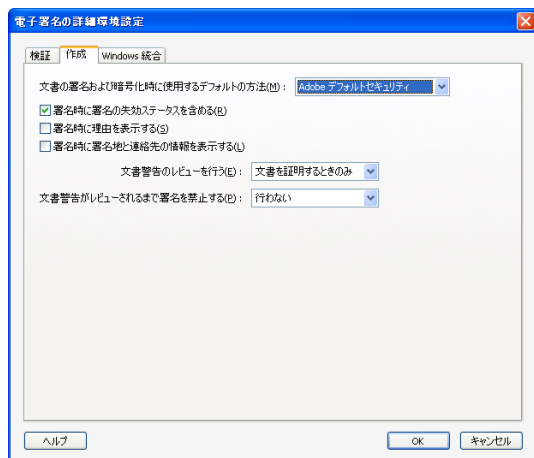
グラフィックなし：既定の電子署名アイコンと、「テキストの設定」セクションで指定したその他の情報だけを表示します。
取り込まれたグラフィック：電子署名と共に画像を表示。画像ファイルを取り込むには、「ファイル」をクリックし、「参照」をクリックして画像ファイルを選択します。
名前：既定の電子署名アイコンと、デジタル ID ファイルに表示される名前だけが表示されます。

「識別名」を選択すると、証明書で定義された氏名、会社名、国名などのユーザの属性が表示されます。

「その他の署名情報」セクションがある場合は、文書に署名する理由、署名地、連絡先情報を指定します。これらのオプションは、セキュリティの環境設定ダイアログボックスで「詳細環境設定」をクリックし、「作成」タブで該当するオプションを選択した場合にのみ使用できます。

補足 2：署名の環境設定について

《編集》メニュー ⇒ [環境設定] ダイアログボックス ⇒ 分類「セキュリティ」⇒「電子署名」グループ ⇒ **詳細環境設定** ボタン



【署名時に署名の失効ステータスを含める】(既定)
 証明書が有効であるか、失効しているかに関する情報を埋め込みます(署名の検証が必要)。このオプションでは、オンラインで証明書が失効したかどうかを判定する必要がないので、検証処理が高速になります。

【署名時に理由を表示する】
 署名フィールドに署名の理由を追加します。

【署名時に署名地と連絡先の情報を表示する】
 署名フィールドに署名地情報を追加します。